

都市再生整備計画 事後評価シート
総社駅南地区

平成23年3月

岡山県総社市

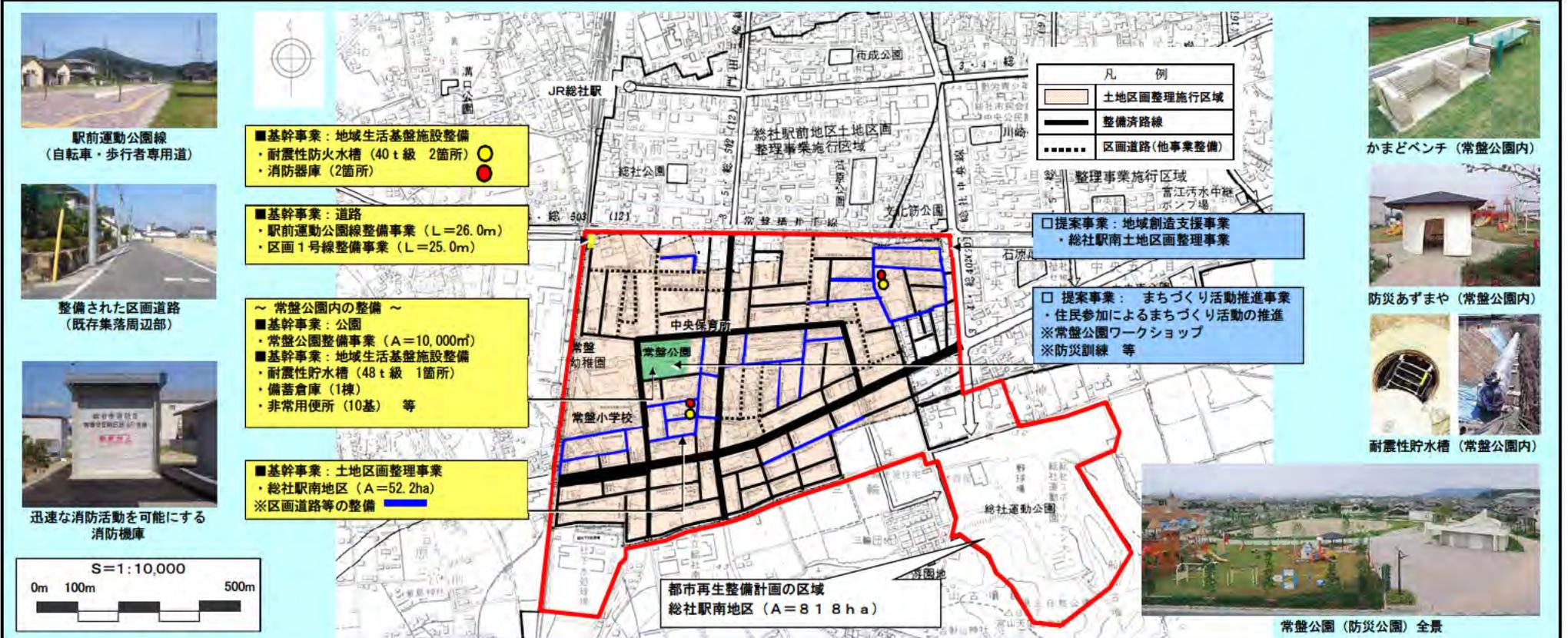
様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	岡山県		市町村名	総社市		地区名	総社駅南地区			面積	81.8ha	
交付期間	平成18年度～平成22年度		事後評価実施時期	平成22年度		交付対象事業費	2,355百万円	国費率	0.41			
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		基幹事業	道路(駅前運動公園線、1号線) 公園(常盤公園) 地域生活基盤施設(地域防災施設:耐震性貯水槽、備蓄倉庫) 土地区画整理事業(総社駅南土地区画整理事業)								
			提案事業	地域創造支援事業(総社駅南土地区画整理事業(市単独費)) まちづくり活動推進事業(住民参加によるまちづくり活動の推進(常盤公園ワークショップ等))								
	当初計画から削除した事業		基幹事業	なし		削除/追加の理由		-				
			提案事業	なし		-		-				
	新たに追加した事業		基幹事業	地域生活基盤施設(地域防災施設:耐震性貯水槽専用管、非常用便所、耐震性防火水槽、消防機庫)		地域における防災環境の更なる向上を図るため		まちづくりの目標や、「良好な住環境と安心への満足度」などの指標にプラスの影響があるが、他の要因による影響もあるため据え置く。				
			提案事業	事業活用調査(事業効果分析)		事業効果分析を行い、今後のまちづくりを検討するため		影響なし				
交付期間の変更		当初	平成18年度～平成22年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		-					
		変更	-									
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標	1年以内の	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期	
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み			
	指標1	定住人口の増加	人	1,676	H16	2,066	H22	2,114	○	あり なし	JR総社駅に隣接する立地条件に加え、土地区画整理事業や、常盤公園、地域防災施設等の整備による安全・安心・快適な市街地環境の創出が、住宅市街地としての魅力を高め、定住人口が増加した。	平成23年4月
	指標2	災害時の飲料水の確保	人	200	H17	5,200	H22	5,200	○	あり なし	市内に配備されている給水車の能力に加え、常盤公園(防災公園)内に48t級の耐震性貯水槽を設置したことで、約5,200人分の飲料水が確保された。	
	指標3	狭隘道路率	%	31.6	H17	10.8	H22	6.7	○	あり なし	市街地環境の変化や住民参加のまちづくりを進めたことで、土地区画整理事業等への理解が深まり、既存集落における狭隘道路の整備・改善が予想以上に進捗し、災害時や緊急時に対する不安が解消された。	平成23年4月
指標4	良好な居住環境と安心への満足度	5段階評価の平均値	2.1	H17	3.2	H22	4.0	○	あり なし	都市基盤や地域防災施設などの整備による快適性・防災性の向上や、防災訓練、常盤公園ワークショップを通じて住民の防災意識、地域コミュニティの高まりが「住環境と安心への満足度」の向上に繋がった。		
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標	1年以内の	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期	
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度※1	達成見込み			
その他の数値指標1	緊急時救済困難戸数	戸	112	H17	/	/	24	/	/	土地区画整理事業による建物移転や区画道路の整備により、既存集落の狭隘道路が大幅に改善され、災害時や緊急時に救済できる戸数が増加し、安全性が向上した。	平成23年4月	
4)定性的な効果発現状況	防災公園(常盤公園)の整備について、ワークショップ等を通じて計画段階から地域住民が関わることにより、防災に対する意識と地域のまちづくりに対する意識が喚起され、自主防災組織が設置された。このような活動を契機として、住民主体のまちづくりの機運や、災害時における自助・共助の意識が更に高まることが期待される。											
5)実施過程の評価	実施内容			実施状況				今後の対応方針等				
	モニタリング	事業の評価、進め方に関するモニタリング(平成18年度)		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● ● ● 市街地の環境について、継続的なモニタリングを実施し、官民協働のもとにその維持・保全に努める。				
	住民参加プロセス	常盤公園ワークショップの開催		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● ● ● 計画段階からの住民参画を促すなど、住民意向を反映した公共施設の整備・改善に努め、住民のまちづくりに対する意識や自分たちのまちへの愛着を醸成していく。				
	持続的なまちづくり体制の構築	自主防災組織活動の支援 常盤公園維持・管理活動の支援		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● ● ● 住民主体の地域活動やまちづくり活動を積極的に推進・支援していく。				

様式2-2 地区の概要

総社駅南地区(岡山県総社市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
大目標: 公共施設の整備推進による快適で災害に強い市街地環境の整備 目標1: 住民参加によるすべての人が安心して住める住環境整備 目標2: 災害時の拠点整備及び交通ネットワークの整備	定住人口の増加	単位:人	1,676	H16	2,066	H22	2,114	H22
	災害時の飲料水の確保	単位:人	200	H17	5,200	H22	5,200	H22
	狭隘道路率	単位:%	31.6	H17	10.8	H22	6.7	H22
	良好な住環境と安心への満足度	単位:5段階評価の平均値	2.1	H17	3.2	H22	4.0	H22
	緊急時救済困難戸数	単位:戸	112	H17	-	-	24	H22



まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> 土地区画整理事業の実施により、特に集落周辺部の生活道路が改善され、緊急時、災害時の対応が可能な交通ネットワークが確保された。しかし、未だ一部の既存集落において、生活環境が改善されていない箇所がある他、夜間の通行や歩行に対して、危険が生じている箇所がある。 防災公園(常盤公園)の整備により、地域の防災拠点、憩いの空間が確保された。近隣公園としての常盤公園は整備されたが、地域住民のより身近な憩いの場、コミュニティ形成の場となる街区公園が不足している。 土地区画整理事業と一体となった自転車・歩行者動線の整備により、駅に近接する地区の利便性が高まったが、文教施設等の地区内外の主要施設へのアクセスについて、一部で自動車と自転車・歩行者の錯綜が見られる。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> 安全・安心な交通ネットワークが整いつつある中において、この環境を維持・保全していくために、必要に応じて地域独自の交通ルール等の導入を検討する。また、整備が遅れている既存集落部分の生活道路の整備・改善を促進し、より安全で快適な住環境を創出すると共に、夜間通行・歩行時の安全・安心性を高める。 防災公園(常盤公園)を舞台とした防災訓練や啓発活動などの地域活動を支援し、地域住民のコミュニティをより一層醸成し、自助・共助に関する意識と、住民の災害対応力を高める。また、地域住民の身近な憩いの空間や、地域を対象とした様々な活動・イベント等を開催する空間など、地域住民が集い、コミュニティを育む舞台(街区公園等)の整備・拡充を進める他、住民主体のまちづくり活動(公共空間の緑化運動等)などを積極的に支援し、地域の環境とコミュニティを高める。 自転車・歩行者空間の日常的な維持・管理の他、プランター等の設置など地域住民によるまちづくり活動を積極的に支援し、緑と潤いのある快適な自転車・歩行者空間を創出する。また、地区や地区の周辺に点在する文教施設や、その他の主要施設に安全にアクセスする自転車・歩行者動線を整備することで、自転車・歩行者にやさしい市街地環境を創出する。

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値		●			
D. その他()		●			

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業		当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
事業	事業箇所名	事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	駅前運動公園線	17	L=26m	10	L=26m	設計内容の精査等に伴い事業費を減額	影響なし	●	
道路	1号線	21	L=25m	13	L=25m	設計内容の精査等に伴い事業費を減額	影響なし	●	
公園	常盤公園	504	A=10,000㎡	456	A=10,000㎡	設計内容の精査等に伴い事業費を減額	影響なし	●	
河川									
下水道									
駐車場有効利用システム									
地域生活基盤施設	地域防災施設 (耐震性貯水槽専用管) 常盤公園内	0	—	19	Φ250mm L=220m	平成20年11月に計画変更して追加耐震性貯水槽より切り出し	影響なし	●	
地域生活基盤施設	地域防災施設 (耐震性貯水槽) 常盤公園内	64	1箇所(48t級)	39	1箇所(48t級)	耐震性貯水槽専用管を事業より切り出したことにより事業費が減少	影響なし	●	
地域生活基盤施設	地域防災施設 (非常用便所) 常盤公園内	0	—	5	10m ³ (10穴)	平成20年11月に計画変更して追加地域における防災環境の向上を図るため事業を追加	良好な住環境と安心への満足度等の指標に関連するが、他の要因による影響もあるため、数値目標は据え置く	●	
地域生活基盤施設	地域防災施設 (備蓄倉庫) 常盤公園内	12	150㎡(S造平屋)	30	150㎡(RC造平屋)	構造の変更に伴い事業費を増額	影響なし	●	
地域生活基盤施設	地域防災施設 (耐震性防火水槽) 総社駅南地区内	0	—	8	2箇所(40t級)	平成18年7月に計画変更して追加地域における防災環境の向上を図るため事業を追加	良好な住環境と安心への満足度等の指標に関連するが、他の要因による影響もあるため、数値目標は据え置く	●	
地域生活基盤施設	地域防災施設 (消防機庫、ホース乾燥棟) 総社駅南地区内	0	—	15	30㎡(補強CB造)	平成18年7月に計画変更して追加地域における防災環境の向上を図るため事業を追加	良好な住環境と安心への満足度等の指標に関連するが、他の要因による影響もあるため、数値目標は据え置く	●	
高質空間形成施設									
高次都市施設									
既存建造物活用事業									
都市再生交通拠点整備事業									
土地区画整理事業(都市再生)	総社駅南地区	1,078	A=52.2ha	1,160	A=52.2ha	なし		●	(翌年見込み)
住宅市街地総合整備事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業								
事業 事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
	事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地区再開発事業								
バリアフリー環境整備事業								
優良建築物等整備事業								
住宅市街地総合整備事業								
街なみ環境整備事業								
住宅地区改良事業等								
都心共同住宅供給事業								
公営住宅等整備								
都市再生住宅等整備								
防災街区整備事業								

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)		目標達成度※2	1年以内の達成見込みの有無		
			基準年度	基準年度	基準年度	基準年度	目標年度	目標年度	事後評価	確定見込み		事後評価	あり	なし
指標1	定住人口の増加	人	平成22年3月時点における住民基本台帳の地区別データと、過去の傾向(平成17年～平成22年)から、地区内定住人口を推計した。		1,460	H11	1,676	H16	2,066	H22	モニタリング		モニタリング	
											事後評価	確定見込み ●	2,114	事後評価
指標2	災害時の飲料水の確保	人	給水車の能力と、地区内に設置されている貯水槽の容量を把握し、災害時における一人当たりの必要飲料水量(3ℓ/人×3日分)を用いて算定した。		-	-	200	H17	5,200	H22	モニタリング		モニタリング	
											事後評価	確定見込み ●	5,200	事後評価
指標3	狭隘道路率	%	総社駅南土地区画整理事業施行地区内で供用している道路のうち、幅員4m未満の道路の割合(延長の割合)を求めて評価値とする。評価基準日までに供用される予定路線の延長も踏まえて評価値を計測した。		-	-	31.6	H17	10.8	H22	モニタリング		モニタリング	
											事後評価	確定見込み ●	6.7	事後評価
指標4	良好な住環境と安心への満足度	5段階評価の 平均値	地域住民を対象としたアンケート調査を実施し、「居住環境」や「交通環境」等に関する満足度を5段階で評価してもらい、その平均値を算定して、評価値とした。		-	-	2.1	H17	3.2	H22	モニタリング		モニタリング	
											事後評価	確定見込み ●	4.0	事後評価

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	・JR総社駅に隣接する良好な立地条件に加え、総社駅南土地区画整理事業などの都市基盤整備や、常盤公園、地域防災施設等の整備による安全・安心・快適な市街地環境の創出が、住宅市街地としての魅力・付加価値を高め、定住人口が増加した。	-
指標2	・市内に配備されている給水車の能力に加え、常盤公園(防災公園)内に48t級の耐震性貯水槽を設置したことで、約5,200人分の飲料水が確保された。	-
指標3	本事業の進捗による市街地環境の変化や常盤公園ワークショップなどの住民参加のまちづくりを進めたことで、土地区画整理事業やまちづくりへの理解が深まった。この結果、既存集落周辺部における狭隘道路の整備・改善が予想以上に進捗し、市街地環境が大幅に改善され、災害時や緊急時に対する不安が解消された。	-
指標4	・都市基盤や地域防災施設などの整備により、住宅地としての快適性・防災性が飛躍的に向上したことに加え、防災訓練や常盤公園ワークショップの実施により、地域住民の防災意識や地域コミュニティが高まり、「住環境と安心への満足度」の向上に繋がった。	-

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○: 評価値が目標値を上回った場合

△: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×: 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指標		データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)	従前値 (イ)	数値(ウ)		本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題 等)	
単位			基準 年度	基準 年度					
その他の 数値指標1	緊急時救済困難戸数	戸	-	-	112	H17	モニタリング	既存集落内の狭隘道路の整備・改善に伴う緊急時救済困難戸数の減少により、快適で災害に強い市街地環境の創出を説明する。	地区の防災環境の向上に関連する指標2、指標3、指標4を補完して、快適で災害に強い市街地環境の創出を説明する。
							事後評価		
その他の 数値指標2									
その他の 数値指標3							モニタリング		
							事後評価		

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

・防災公園(常盤公園)の整備について、ワークショップ等を通じて計画段階から地域住民が関わることにより、防災に対する意識と地域のまちづくりに対する意識が喚起され、自主防災組織が設置された。このような活動を契機として、住民主体のまちづくりの機運や、災害時における自助・共助の意識が更に高まることが期待される。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
事業の評価、進め方に関するモニタリング	予定どおり実施した	●【実施頻度】計1回 【実施時期】平成18年度 【実施結果】防災公園(常盤公園)の整備に合わせ、地域の防災環境をより高めるため、防火水槽と消防機庫の整備を交付対象事業に追加した。	市街地の環境について、継続的なモニタリングを実施し、官民協働のもとにその維持・保全に努める。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
常盤公園ワークショップの開催	予定どおり実施した	●【実施頻度】計7回 【実施時期】平成19年度～平成21年度 【実施結果】防災公園(常盤公園)の整備について、計画段階から地域住民が関わることにより、防災と地域のまちづくりに対する意識が喚起されたと共に、地域住民の思いを反映した親しみある公園が整備された。	計画段階からの住民参画を促すなど、住民意向を反映した公共施設の整備・改善に努め、住民のまちづくりに対する意識や自分たちのまちへの愛着を醸成していく。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名・組織の概要	
自主防災組織活動の支援	予定どおり実施した	●常盤公園において、防災訓練を実施し、防災関連施設の使い方などに関する講習を行った。	自主防災組織	住民主体の地域活動を積極的に推進・支援していく。
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			
常盤公園維持・管理活動の支援	予定どおり実施した	●常盤公園ワークショップ等の住民参加のまちづくりを実践した。	地元自治会	住民主体のまちづくり活動を積極的に推進・支援していく。
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
都市再生整備計画事後評価検討会 (庁内の横断的な組織)	都市計画課、企画課、財政課、建築住宅課、土木課、地域応援課、消防本部庶務課、上水道課	平成22年10月19日 計1回開催	都市計画課

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1		指標2		指標3		指標4	
指標名		定住人口の増加		災害時の飲料水の確保		狭隘道路率		良好な住環境と安心への満足度	
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	道路(駅前運動公園線)	○	・JR総社駅に隣接する良好な立地条件に加え、総社駅南土地区画整理事業などの都市基盤整備や、常盤公園、地域防災施設等の整備による安全・安心・快適な市街地環境の創出が、住宅市街地としての魅力・付加価値を高め、定住人口が増加した。	-	・市内に配備されている給水車の能力に加え、常盤公園(防災公園)内に48t級の耐震性貯水槽を設置したことで、約5,200人分の飲料水が確保された。	○	・本事業の進捗による市街地環境の変化や常盤公園ワークショップなどの住民参加のまちづくりを進めたことで、土地区画整理事業やまちづくりへの理解が深まった。この結果、既存集落における狭隘道路の整備・改善が予想以上に進捗し、市街地環境が大幅に改善され、災害時や緊急時に対する不安が解消された。	◎	・都市基盤や地域防災施設などの整備により、住宅地としての快適性・防災性が飛躍的に向上したことに加え、防災訓練や常盤公園ワークショップの実施により、地域住民の防災意識や地域コミュニティが高まり「住環境と安心への満足度」の向上に繋がった。
	道路(1号線)	○		-		○			
	公園(常盤公園)	○		○		-		○	
	地域生活基盤施設:地域防災施設(耐震性貯水専用管)	○		◎		○		○	
	地域生活基盤施設:地域防災施設(耐震性貯水槽)	○		◎		○		○	
	地域生活基盤施設:地域防災施設(非常用便所)	○		-		○		○	
	地域生活基盤施設:地域防災施設(備蓄倉庫)	○		-		○		○	
	地域生活基盤施設:地域防災施設(耐震性防火水槽)	○		-		○		○	
	地域生活基盤施設:地域防災施設(消防機庫、ホース乾燥棟)	○		-		○		○	
土地区画整理事業:都市再生(総社駅南地区)	◎	-	◎	◎					
提案事業	地域創造支援事業:土地区画整理事業(総社駅南地区)	◎	-	-	◎	◎	◎		
	まちづくり活動推進事業:常盤公園ワークショップ、防災訓練等	-	-	-	-	○	○		
関連事業	土地区画整理事業:特会(総社駅南地区)	◎	-	-	◎	◎	◎		

※指標改善への貢献度

- ◎: 事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- : 事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △: 事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	指標1	指標2	指標3	指標4
今後の活用	・人口増加に対応して、新旧住民が融合した良好なコミュニティを形成する舞台(街区公園等)の整備・拡充を行う。	・常盤公園(防災公園)を舞台として、防災訓練や、防災に関する啓発活動を行い、自助・共助に関する意識の高揚と、住民の災害対応力の向上を図る。	・土地区画整理事業の更なる進捗を図り、より安全で快適な市街地環境を創出する。	・土地区画整理事業の更なる進捗を図り、より安全で快適な市街地環境を創出する。 ・防災訓練や、防災に関する啓発活動等を通じて、自助・共助に関する意識の高揚と、住民の災害対応力の向上を図る。 ・豊かな緑に包まれた身近な憩いの空間を整備する。

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		その他の数値指標1							
指標名		緊急時救済困難戸数							
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	道路(駅前運動公園線)	-	・土地区画整理事業による建物移転や区画道路の整備により、既存集落の狭隘道路が大幅に改善され、災害時や緊急時に救済できる戸数が増加し、安全性が向上した。						
	道路(1号線)	-							
	公園(常盤公園)	-							
	地域生活基盤施設:地域防災施設(耐震性貯水槽専用管)	○							
	地域生活基盤施設:地域防災施設(耐震性貯水槽)	○							
	地域生活基盤施設:地域防災施設(非常用便所)	○							
	地域生活基盤施設:地域防災施設(備蓄倉庫)	○							
	地域生活基盤施設:地域防災施設(耐震性防火水槽)	○							
	地域生活基盤施設:地域防災施設(消防機庫、ホース乾燥棟)	○							
土地区画整理事業:都市再生(総社駅南地区)	◎								
提案事業	地域創造支援事業:土地区画整理事業(総社駅南地区)								◎
	まちづくり活動推進事業:常盤公園ワークショップ、防災訓練等								-
関連事業	土地区画整理事業:特会(総社駅南地区)	◎							

※指標改善への貢献度

- ◎: 事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- : 事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △: 事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	・土地区画整理事業の更なる進捗を図り、より安全で快適な市街地環境を創出する。				
-------	----------------------------------------	--	--	--	--

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
都市再生整備計画事後評価検討会 (庁内の横断的な組織)	都市計画課、企画課、財政課、建築住宅課、 土木課、地域応援課、消防本部庶務課、上 水道課	平成22年10月19日 計1回開催	都市計画課

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
災害時に機能する交通ネット ワークが確保されておらず、 緊急時の対応に支障をきたし ている。	土地区画整理事業の推進により、特に既存集落内の生 活道路が改善され、緊急時、災害時の対応が可能な交 通ネットワークが確保された。	・一部の既存集落において、生活環境が改善されていない。 ・ネットワークとしての機能性と安全性は確保されつつあるが、 夜間の通行や歩行に対して、危険が生じている箇所がある。	・人口増加に対応して、新旧住民が融合した良好なコミュニ ティを形成する環境が十分に整っていない。
近隣住民の憩いの場や災害 時における避難空間が不足し ている。	防災公園(常盤公園)の整備により、地域の防災拠点、 憩いの空間が確保された。また、計画段階から住民が 参画することで、地域住民の防災やまちづくりに対する 意識が喚起された。	・近隣公園としての常盤公園は整備されたが、地域住民のより 身近な憩いの場、コミュニティ形成の場となる街区公園が不足 している。	
文教施設が集積し、JR総社 駅に近接する地区の利便性 が十分に活かされていない。	土地区画整理事業と一体となった自転車・歩行者動線 の整備により、駅に近接する地区の利便性が高まっ た。	・文教施設をはじめとする地区内外の主要施設へのアクセスに ついて、一部で自動車と自転車・歩行者の錯綜が見られる。	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方
策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を
添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
A欄 効果を持続させるため に行う方策	安全・安心な交通ネットワークの維持・保全	・安全・安心な交通ネットワークが整いつつある中において、この環境を維持・保全していくために、必要に応じて地域独自の交通ルール等の導入を検討する。	・交通ルールや規制の導入に関する検討支援
	安全・安心な防災環境の創出	・防災公園(常盤公園)を舞台とした防災訓練や啓発活動などの地域活動を支援し、地域住民のコミュニティをより一層醸成し、自助・共助に関する意識と、住民の災害対応力を高める。	・地域活動(防災訓練や啓発活動等)に関する運営支援
	快適な自転車・歩行者空間の創出	・自転車・歩行者空間の日常的な維持・管理の他、プランター等の設置など地域住民によるまちづくり活動を積極的に支援し、緑と潤いのある快適な自転車・歩行者空間を創出する。	・まちづくり活動(公共施設の維持・管理やプランターの設置等)に関する運営支援

	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
B欄 改善策 ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	安全・安心な住環境の創出	・整備が遅れている既存集落部分の生活道路の整備・改善を促進し、より安全で快適な住環境を創出すると共に、夜間通行・歩行時の安全・安心性を高める。	・総社駅南土地区画整理事業 ・照明施設等の設置
	地域コミュニティを形成する環境づくり	・地域住民の身近な憩いの空間や、地域を対象とした様々な活動・イベント等を開催する空間など、地域住民が集い、コミュニティを育む舞台(街区公園等)の整備・拡充を進める。 ・住民主体のまちづくり活動(公共空間の緑化運動等)などを積極的に支援し、地域の環境とコミュニティを高める。	・街区公園の整備 ・常盤小学校グランド用地の拡充 ・まちづくり活動(公共空間の緑化運動等)に関する運営支援
	人優先のまちづくり	・地区や地区の周辺に点在する文教施設や、その他の主要施設に安全にアクセスする自転車・歩行者動線を整備することで、自転車・歩行者にやさしい市街地環境を創出する。	・自転車・歩行者道の整備

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
●	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

- ・小学校や高校に通う通学路が狭隘で危険なところがあるため、本地区だけでなく、周辺も含めた整備を推進していくことが必要との意見があった。
- ・本地区では良好な住環境が創出されたが、周辺には未だ十分な環境が整っていないところもある。今後のまちづくりに向けては、地域間のバランスに配慮することが必要であるとの意見があった。
- ・駅周辺のポテンシャルが低いいため、本地区の事業効果が他地区にも波及するような今後のまちづくりを検討してほしいとの意見があった。

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

- ・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
- ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値	年度	目標値	年度	評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無	フォローアップ計画			
											予定時期	計測方法	その他特記事項	
指標1	定住人口の増加	人	1,676	H16	2,066	H22	確定見込み	●	2,114	○	あり なし	平成23年4月	平成23年4月時点における住民基本台帳の地区別データより、確定値を求める。	-
指標2	災害時の飲料水の確保	人	200	H17	5,200	H22	確定見込み	●	5,200	○	あり なし			
指標3	狭隘道路率	%	31.6	H17	10.8	H22	確定見込み	●	6.7	○	あり なし	平成23年4月	総社駅南土地区画整理事業区域内の幅員4m未満の道路の割合(延長の割合)を求めて確定値とする。	-
指標4	身近な住環境と安心への満足度	5段階評価の 平均値	2.1	H17	3.2	H22	確定見込み	●	4.0	○	あり なし			
指標5							確定見込み				あり なし			
その他の 数値指標1	緊急時救済困難戸数	戸	112	H17			確定見込み	●	24			平成23年4月	総社駅南土地区画整理事業区域内の幅員4m未満の道路に面する建物戸数を計測し、確定値とする。	-
その他の 数値指標2							確定見込み							
その他の 数値指標3							確定見込み							

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	-	-
	うまく いかなかった点	-	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	「良好な住環境と安心への満足度」(アンケート調査)を指標としたことで、全ての事業が関連した総合的なまちづくりに関する市民の評価を把握することができた。	まちづくりの総合的な評価を実施する上で、アンケート調査は有効である。
	うまく いかなかった点	「災害時の飲料水の確保」を指標としたが、耐震性貯水槽の整備に伴い確実に向上するものであり、ややアウトプットの指標となっている。	個別の事業に対する指標ではなく、事業相互の関連性を踏まえる中で、適切なアウトカム指標を設定することが必要である。
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	公園ワークショップを開催したことで、地域住民のまちづくりや防災に関する意識が高まった他、地域の連携やコミュニティが醸成された。	地域のまちづくりに対する住民の意識や主体性を高める取り組みとして、ワークショップなどの住民参加プロセスは有効である。
	うまく いかなかった点	-	
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	「定住人口」は、毎年度、数値を把握できるので、今後も引き続き評価をしていくことが可能である。	毎年度、データが把握できるものを指標とすることは、PDCAサイクルを回す上で有効である。
	うまく いかなかった点	-	
その他	うまくいった点	-	-
	うまく いかなかった点	-	

添付様式6－参考記述 今後、交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

・今後の交付金の活用予定
本地区において、未だ未整備な状態にある既存集落内生活道路の整備・改善を中心とした事業を推進し、より安全・快適な住宅市街地を創出するため、次期計画を進めていく。

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市のホームページに掲載	平成22年11月1日～11月15日	平成22年11月1日～11月15日	担当課への電話、FAX、郵送、電子メール等	都市計画課
広報掲載・回覧・個別配布	広報に、市のホームページ及び担当課窓口で原案を公表している旨を掲載	平成22年11月1日発行 広報そうじゃ11月号	平成22年11月1日～11月15日		
説明会・ワークショップ	-	-	-		
その他	都市計画課窓口での閲覧	平成22年11月1日～11月15日	平成22年11月1日～11月15日		

住民の意見	なし				
-------	----	--	--	--	--

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	山田 孝延 岡山県立大学名誉教授	平成22年12月1日	都市計画課	総社市都市再生整備計画評価委員会設置要綱	独自に設置
その他の委員	総社商工会議所会頭 上三輪連合町内会会長				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	・方法書に従って、事後評価が適正に実施されたことが確認された。
	成果の評価	・成果の評価については、了承された。
	実施過程の評価	・実施過程については、適正であると確認された。 ・次期計画で実施予定の街区公園の整備についても、住民参加で実施することにより、希薄になりつつある住民コミュニティを高めることが期待できる。子供や母親などを交えた検討を行うことが必要であるとの意見があった。
	効果発現要因の整理	・効果発現要因の整理は、適正であると確認された。
	事後評価原案の公表の妥当性	・事後評価原案は、市民に対して適正に公表されたことが確認された。
	その他	・なし
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	・事後評価の手続きは、妥当であると認められた。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	・今後のまちづくりについては、住民主体のまちづくり活動（公共空間の緑化運動等）を積極的に推進していくことが重要との意見があった。 ・周辺地区に比べ高質な環境が整備されている半面、維持管理費が割高になるのではとの意見があったが、地域住民との協働により維持管理を行うことでコストを小さくしていく方針で理解を得た。 ・「コミュニティ形成の場」という表現だけでは、集会所等の施設をイメージされる恐れがあるので、公園がイメージできるような表現に改めるべきとの意見があった。
	フォローアップ	・フォローアップについては、妥当であると認められた。
	その他	・小学校や高校に通う通学路が狭隘で危険なところがあるため、本地区だけでなく、周辺も含めた整備を推進していくことが必要との意見があった。 ・本地区では良好な住環境が創出されたが、周辺には未だ十分な環境が整っていないところもある。今後のまちづくりに向けては、地域間のバランスに配慮することが必要であるとの意見があった。 ・駅周辺のポテンシャルが低いいため、本地区の事業効果が他地区にも波及するような今後のまちづくりを検討してほしいとの意見があった。
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	・今後のまちづくり方策は、妥当であると認められた。
その他	・なし	

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。

都市再生整備計画(第5回変更)

そうじゃえきなん
総社駅南地区

おかやまけん そうじゃし
岡山県 総社市

平成23年3月

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>整備方針1:住民参加によるすべての人が安心して住める住環境整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市計画道路の整備にあわせて、既存集落内など未整備の区画道路の整備を促進することにより、緊急車両の進入が困難な狭隘道路を解消し、安全で安心な居住環境を創出する。 ・JR総社駅と総社運動公園を結ぶ駅前運動公園線（歩行者自転車専用道路）に接して、常盤小学校等の文教施設と常盤公園(近隣公園)が隣接して設置される予定となっており、そのほかにも街区公園が3箇所設置される予定となっている。 そのうち常盤公園について、住民参加のワークショップ形式により、遊具・植栽・休憩施設等の設置を検討した上で、本来公園が持つコミュニティ形成の場として、また憩いの場としての空間整備を行う。 ・これらの具体的施策の展開により住民の地域への愛着がより一層醸成され、街並み美化や景観向上に向けた自治会活動のより一層の活発化を図る。 ・これによって、定住人口の増加を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道路（基幹事業／駅前運動公園線他1路線・市） ・公園（基幹事業／常盤公園・市） ・土地区画整理事業（基幹事業／市） ・地域創造支援事業（提案事業／土地区画整理事業・市単独費） ・まちづくり活動推進事業（提案事業／住民参加によるまちづくり活動の推進事業・市） ・事業活用調査（提案事業／今後のまちづくりを検討するための事業効果分析調査・市） ・土地区画整理事業（特会）（関連事業／市）
<p>整備方針2:災害時の拠点整備及び交通ネットワークの整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市計画道路の整備にあわせて、既存集落内など未整備の区画道路の整備を促進することにより、緊急時等にも十分に対応できる交通ネットワークを整備する。 ・近隣公園である常盤公園は、隣接する常盤小学校と一体となった災害時の避難拠点として位置づけ、災害時における防災施設の拠点としての整備を行う。 ・防災機能を高めるため、消防機庫、防火水槽を整備する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道路（基幹事業／駅前運動公園線他1路線・市） ・公園（基幹事業／常盤公園・市） ・地域生活基盤施設（基幹事業／地域防災施設整備・市） ・土地区画整理事業（基幹事業／市） ・土地区画整理事業（特会）（関連事業／市）
<p>その他</p> <p>《事業終了後の継続的なまちづくり活動》 本地区では、地元の自治会やまちづくり協議会が主体となって、まちづくり交付金事業で整備された施設を利活用し、街の維持・管理を含め、よりよい居住環境の創出に向けた様々なまちづくり活動を展開する予定である。</p> <p>《交付期間中の計画の管理について》 交付期間中において、各事業を円滑に進め、目標に向けて確実な成果を上げるために、行政と地元のまちづくり組織が協働して、毎年、事業成果について評価や事業の進め方の改善等を行うため、モニタリングを実施する。また、その結果については、広報紙などにより市民に情報を公開する。</p>	

